

# 令和5年度 学校経営の改革方針

鈴鹿市立牧田小学校

## I 目指す学校像（基本理念）》》》》

学校教育目標 「人とふれあい、共に学び、共に育つ子の育成」

### < 目指す学校像 >

- ◇ 一人ひとりの学力を保障する学校
- ◇ ちがいを認め、共に高め合う学校
- ◇ 生き生きと活動する子を育てる学校
- ◇ 地域と共に歩む学校

### < 目指す子ども像 >

- ◇ よく考え、進んで学ぶ子（知）
- ◇ 違いを認め、高め合う子（徳）
- ◇ 生き生きと活動する子（体）

### < 目指す教師像 >

- ◇ 保護者・地域から信頼される教師
- ◇ 常に学び続ける教師
- ◇ 実践力、行動力のある教師

## II 学校経営基本方針 》》》》

- ◇ 学力保障
  - ・一人ひとりに学力を保障する教育活動を推進する。
  - ・読書活動を推進し、幅広い知識と豊かな心を育成する。
- ◇ 豊かな人間性の育成
  - ・自他のちがいを認め、共に生きる力を育成する。
  - ・多文化共生教育を基軸とした取組を推進する。
- ◇ 生活指導
  - ・基本的生活習慣の確立を目指す。
  - ・健康安全教育を推進し、心身共に健やかな子を育成する。
- ◇ 開かれた学校と安全・安心の学校教育環境づくり
  - ・地域との協働による「鈴鹿型コミュニティ・スクール」を推進する。
  - ・地域の偉人に生き方や考え方を学び、地域を愛する心を育成する。
  - ・保育所、幼稚園、中学校との連携を深め、一貫した教育活動の取組を推進する。
- ◇ 働きやすい環境づくり
  - ・総勤務時間の縮減に努める。
  - ・“チーム牧田”をスローガンに職員間の連携・協力を活発にし、組織的で風通しの良い職場づくりを進める。

## III 現状と課題 》》》》

### 1 学力保障

算数科を中心に、各教科の基礎基本の定着をめざし、学力保障に取り組んできたが、年度当初の第1回みえスタディチェックや全国学力学習状況調査において十分な結果が出せていない現状があった。分析の結果、「まとめる力」や「読み取る力」、「書く力」に大きな課題があることが分かった。そこで、2学期から教育委員会の「読む・書くワークシート」を活用するとともに、「学 Viva セット」から出題した課題を宿題として活用していくなどの取組を行った。その結果、第2回のみえスタディチェックでは、自校の第1回目を上回るだけでなく、県の平均も上回る結果

となった。依然として、課題の部分には弱さがみられるものの、取り組むことで着実に効果が得られる手ごたえを得ることができた。一方、国際教室「いきいき」の日本語指導と連携した「算数科の授業研究」や補充学習「ステップ」等の活用により、基礎基本の徹底を図ってきている。その結果、外国につながるのある児童や学習に課題を持つ児童も、様々な支援を受けながら授業に対して意欲的に取り組む姿が見られるようになってきた。今後は、よりICTをより効果的に活用した授業づくりやノート指導の徹底等、きめ細かな指導を進めていく必要がある。また、学習の定着に向け、家庭と連携した家庭学習の強化を図っていく。

## 2 豊かな人間性の育成

児童アンケートの結果から、本校の児童は「自分や友だちを大切にし、いじめや差別をなくそうとしている」という意識は4年間連続して9割を超え、「学校で文化の異なる国の人たちを理解する取組を行っている」という項目についても約9割が肯定的な回答をしている。しかし、日常行動では、学年を問わず児童間のトラブルは絶えない。また昨年度は、トラブルの総数自体は減少しているが、そこに占める暴力事案の割合が多く、安易に手が出てしまう傾向があることが大きな課題である。今年度は、適宜ソーシャルスキルトレーニングなども取り入れて、トラブル発生時の望ましい解決方法などを学ばせていきたい。また、学校行事の見直しにより、従来の方法によるたて割り班活動は廃止するものの、児童会行事や委員会活動を再び活性化させることで、自主的な体験活動や異年齢交流を機能させていきたい。ポストコロナとして、再び高学年が低学年の手本となる場面の機会確保に努めたい。

一方、年間を通して全学年が取り組んだ多文化共生教育の『まとめ』と『発表の場』としての『牧田万博』は、感染予防対策を図りながら開催にこぎつけた。

## 3 生活指導

複雑な家庭環境や経済的に厳しい状況にある児童も多く、不登校や遅刻者も多い。担任だけではなく、特別支援コーディネーターやスクールカウンセラー、スクールライフサポーターや関係機関とも連携して学校全体で組織的に不登校対策に取り組んでいる。特に昨年度は、校内に不登校の児童が学べる場所として、校内教育支援センター「ほっとルーム」を常設し、担当者を配置することで、今まで不登校の状態になっていた児童が、学校に登校できるようになったケースが見られるなど一定の成果があった。今年度も引き続き、取組の見直しを行いながら、より効果のある「ほっとルーム」の運営に努めたい。

また、自分の持ち物は自分で管理するなどの観点から、全学年で持ち物チェックを開始することともに、「牧田小学校の約束」を現在の視点や実態に合わせて、より実行力のあるものへと修正を行うことができた。

また、生活指導に関する情報共有シートを活用することで、日々発生する様々な事案を教職員が情報共有できるようになり、効果的で組織的な対応につながった。

## 4 開かれた学校と安全・安心の学校教育環境づくり

地域とともに子どもの健やかな成長を願い、「鈴鹿型コミュニティ・スクール」の充実に取り組み「特色ある学校づくり」を推進している。

また、地域住民の方々を中心に、子どもたちの安全・安心面での協力はもちろん、学習支援・読み聞かせ・環境整備等のボランティア活動が活発に行われており、また「牧田地区地域づくり協議会」との連携を図り、多文化共生教育並びに郷土の偉人学習に取り組んでいる。

さらに、学校通信やホームページを活用し、保護者・地域への情報発信に努めている。

## 5 総勤務時間の縮減

平日の残業に加え、休日出勤して校務をこなしている職員もいる。総勤務時間の縮減は喫緊の課題であり、学校行事の精選や組織体制の見直し、教職員の意識改革が必要である。

## IV 中長期的重点目標 >>>

### 1 学力保障

- (1) 教科研究の推進と授業力の向上  
授業研究を通して授業の工夫・改善に取り組むとともに、すべての子どもが理解しやすい教材・教具の開発に努める。
- (2) 家庭学習の定着  
高学年は基本4点セット(音読・漢字・計算・自主勉強)、低学年は基本3点セット(自主勉強を除く)を毎日の宿題とすることを基本にして、家庭学習に自ら進んで取り組める工夫をする。
- (3) ICT 端末の活用  
一人一台端末を活用し、調べ学習や自主学習など、児童の主体的な学びを拡充させる。
- (4) 日本語指導教育の推進  
JSL バンドスケールで日本語能力を測定し、外国籍児童個々のニーズに応じた支援を行うとともに、日本語で教科学習を受けることのできる日本語能力の基礎を育成する。
- (5) 特別支援教育の推進  
個々の教育的ニーズに応じた支援を行うため校内支援体制を充実させるとともに、特別支援コーディネーターを中心に、長期的な視点に立った個別の教育支援計画を作成する。また、関係機関とも連携し、一人ひとりに適切な支援を行う。

### 2 豊かな人間性の育成

- (1) あらゆる教育活動が人権尊重の精神に立って行われているかを点検し、企画・調整する体制を整備する。
- (2) 教職員の人権感覚・実践力を高めるために人権教育研修会、研究大会に参加しやすい校内体制づくりをする。
- (3) 多様な文化や習慣を学び合い、認め合う多文化共生の意識を向上させ、すべての児童が安心して学校生活を送れるよう教育環境の整備に努める。

### 3 生活指導

- (1) 基本的な生活習慣の大切さを児童や保護者に伝え、学校でできる基本的な生活習慣の定着に向けた取り組みを推進する。
- (2) 学校、学級での仲間づくりに力を入れ、不登校対策として魅力ある学校・学級づくりを推進する。また、校内教育支援センターの取組を充実させる。
- (3) 児童の自主的な活動を通して、生活をよりよくしていく態度の伸長を図り、児童自らの生活に対する意識を高める。
- (4) いじめに対する教職員の意識向上に努め、いじめを見抜き、許さない学校風土の確立に努める。

### 4 開かれた学校づくりと安全・安心の学校教育環境づくり

- (1) 「鈴鹿型コミュニティ・スクール」の基本理念をふまえ、学校運営協議会を核とした、学校・保護者・地域が協働する地域ぐるみの教育を推進する。
- (2) 災害時や非常時における防災・防犯体制を整備し、迅速かつ的確な対応を行うことができる安全で安心な学校づくりを推進する。
- (3) 落ち着いて生活、学習できる環境を整えるため、危険箇所や破損箇所を放置することなく、点検・修理し環境整備に努める。

### 5 総勤務時間の縮減

- (1) 校務分掌の平準化を意識し、特定の職員に負担がかからぬよう全教職員が努める。
- (2) 平素より、セブン退校(午後7時を目途にした退校)を心掛け、退校しやすい職場づくりに努める。

## V 本年度の行動計画（手だてと指標）》》》

### 1 学力保障

#### (1) 教科研修の推進と授業力の向上

- ① 意欲的に学び、生きる力を身につけていく子どもの育成を目指して、言語活動を効果的に取り入れた授業づくりの研修を進める。特に新聞記事を活用した「読む・書くワークシート」の活用は継続する。
- ② 算数科の授業では、効果的な言語活動の取組を継続する。
- ③ 5年生と4年生の算数科で習熟度別少人数指導を進める。
- ④ 児童が見通しをもって学習に取り組み、学習内容を確認して次時への意欲が持てるよう、『めあて』と『振り返り』を設定した授業スタイルを確立する。

【授業スタイル確立 100%】

- ⑤ ICT機器の活用を図り、学習課題を拡大化・焦点化し、授業効率を高める。
- ⑥ 各学年で、算数科または人権学習で1回以上、授業を公開する。そのうち全体研修は算数科2回、人権学習1回とする。「なかよし」担当者・「いきいき」担当者・専科も含め、積極的に授業公開をする。  
【指導主事招聘 年3回以上】
- ⑦ 授業力向上のため、市指導力向上支援員や県学力向上アドバイザーを招聘する。
- ⑧ 全国学力・学習状況調査は、全教職員での問題分析や課題分析並びに方針検討を実施する。また、過去の問題を（記述問題）に取り組む時間を確保し、既習内容のプリントなどを全学年で行う。  
【各教科全国比以上】

#### (2) 家庭学習

- ① 家庭学習は、低学年の基本3点セット（音読・漢字・計算）、高学年は自主勉強を加えた基本4点セットに取り組みさせる。また、学Viva!セットを活用した週末の宿題を継続する。
- ② 優れた自主学習ノートを紹介し、意欲的に取り組みさせるようにする。

#### (3) 学習ボランティアとの連携

- ① 学習ボランティアと連携する。
- ② 「朝の読書」の時間で、読み聞かせボランティアと連携する。【1～4年】
- ③ 外国人児童を中心とした児童の音読の聞き取りで、ボランティアと連携する。【1・2年児童】

#### (4) 日本語指導教育の推進

- ① 国際教室「いきいき」通級児童を中心とした支援の交流会を学年ごとに行う。（7月）
- ② JSLバンドスケール判定会議（1年は6月、全学年12月）で、日本語能力を把握し、指導に活かす。
- ③ 学期ごとに国際教室運営委員会で情報共有する。
- ④ リライト教材やワークシート、視覚教材などを工夫し、国籍児童に適した教材研究を行う。
- ⑤ 国際教室「いきいき」担当者と在籍学級担任が連携し、教材研究・指導方法を工夫する。
- ⑥ 夏休みに外国籍児童を対象とした学習会を開催する。

#### (5) 特別支援教育の推進

- ① 特別支援コーディネーターを中心に個別の教育支援計画を作成（作成率100%）し、校内特別支援委員会を通して支援の在り方を検討する。さらに、個々の事例に応じてケース会議を行い、個に応じた支援を行う。
- ② 特別支援学級に在籍する児童及び通常の学級に在籍する支援が必要な児童への支援策について全職員が研修を深める。
- ③ 個別の指導計画を活用した発達支援の取り組みを推進する。

## 2 豊かな人間性の育成

### (1) 人権教育

- ① 定期的に部会を開催し、児童を取り巻く課題や、計画的な人権教育推進について話し合う。
- ② 人権教育カリキュラムに沿った推進計画づくりや見直しを行う。
- ③ 人権学習の推進(学年部ごとに人権研究授業を行う)
- ④ レポート研修会を年間2回開催し、仲間づくりの推進をする。
- ⑤ 中学校区人権フォーラムに6年生代表が参加し、6年生と5年生が交流会を行う。
- ⑥ 教職員の人権感覚を高めるための研修会を開催する。【年1回以上】
- ⑦ 地域や中学校区と連携した人権学習を行う。
- ⑧ 安心して学校生活を送れるよう、合理的配慮をした教育環境の整備に努める。

### (2) 多文化共生教育

- ① 各学年で多文化共生教育に取り組み、『牧田万博』で発表する。
- ② 『牧田万博』、『教育を語る会』において、保護者や地域の人たちと共に多文化共生について考える機会をもつ。
- ③ 多文化共生に関する研修会の開催
- ④ 外国籍児童保護者懇談会を行い、保護者に子ども進路についても考えてもらう機会をもつ。  
【4月と2月の年2回】

## 3 生活指導

### (1) 生活指導

- ① 修正した「牧田小学校の約束」や持ち物チェックなどを活用し、児童が主体的に学校生活の規律を高められるような取り組みを行う
- ② 基本的な生活習慣の定着を推進する。 → 「すいみんの日」を創徳中学校区で実施している校区「ノーメディアデー」に編入し、スクリーンタイムの抑制と睡眠時間確保の取組を行う。  
【創徳中学校の定期テスト期間】
- ③ 問題行動に対しては、毅然とした対応と児童の心情を引き出すための指導に努める。
- ④ 携帯電話、インターネットの利用が増加しており、個人を誹謗中傷する書き込みが懸念されることから、メディアリテラシーを向上させるためインターネットモラルの向上に取り組む。  
【年1回以上 中高学年】
- ⑤ 毎日、連絡の無い欠席児童には、保護者に電話連絡をし、安否を確認する。また、スクールライフサポーターと情報共有し、家庭訪問をして登校を促す。保護者や関係機関とも連携を図り、登校できる環境づくりをする。

### (2) 児童会

- ① 児童会を活用することによって、児童の自治や課題解決に関する力の向上を図る。

## 4 開かれた学校づくりと安全・安心の学校教育環境づくり

### (1) 「鈴鹿型コミュニティ・スクール」の推進

- ① 学校運営協議会を各学期2回開催し、地域・家庭・学校の協働による「特色ある学校づくり」を推進する。
- ② 児童が地域行事に参加したり、地域活動に貢献したりすることにより、双方向の連携を強化する。  
【4年生が地域行事「弁天山まつり」に参加】
- ③ 「牧田地区地域づくり協議会」との連携強化を図る。
- ④ 「すずか夢工房」等、外部講師を活用しキャリア教育を推進する【各学年1回以上、全体1回】

### (2) 学校評価の取組に努め、その結果を活用し、教育の質の向上に努める。

- ① 生徒、保護者アンケートを実施し、現状把握に努める。
- ② 全職員で自己評価を行い、学校関係者による評価を行う。
- ③ 学校の教育活動を積極的に学校だより、ホームページ等で発信する。

(3) 防災・防犯体制を確立し、安全で安心な学校づくりに努める。

- ① 学校事故防止のための年間計画及び災害発生時緊急対応マニュアルを活用し、学校全体で危機管理を強化する。
- ② 学期に1回全校児童を対象に避難訓練を実施する。
- ③ 学校環境を整備する。
- ④ P T A、自治会と連携し、「にこにこ牧田っ子見守り隊」の活動を行う。

## 5 総勤務時間の縮減

- (1) 一人あたりの月平均時間外労働を**27**時間以下とする。
- (2) 特別の事情がない限り、月45時間を超える時間外労働者を0人とする。
- (3) 特別の事情がない限り、年360時間を超える時間外労働者を0人とする。
- (4) 一人あたりの**月平均年次休暇取得日数を1日**以上とする。
- (5) セブン退校(午後7時を目途にした退校)を心掛けるとともに、職場全体での「定時退校日」、個人設定の「ノー残業デー」を設け、定時に退校できた職員数を90%以上とする。
- (6) 放課後に開催される全会議の内、60分以内に終了する会議の割合を70%にする。
- (7) 職員打ち合わせを毎週火・金16:00~実施する。
- (8) 勤務時間外の登校指導を取りやめ、負担軽減を図る。
- (9) “探す”“迷う”“悩む”の解消のため、校務における相談・連携を全教職員で意識化する。
- (10) 管理職から声掛けを行い、退校しやすい雰囲気づくりに努める。